白山台小

主体的に表現する児童の育成

～問題解決的な学習を通して（音楽科）～

（３年計画の１年次）
校長　　種市　八重子

１　研究主題について

本校では、教育目標に「めあてに向かってともに学び合う子」を掲げ、校歌に謳われた「学ぶたのしさを分かちあう学校」「心とからだを鍛えあう学校」の実現を目指している。この具現化のために、教育は人づくりという視点に立ち、児童一人一人の学びの場である授業において、すべての子どもに主体的に学ぶ態度を身に付けさせ、確かな学力を保証する必要がある。そこで、すべての子どもが楽しく「わかる・できる」ように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりをもとに、表現力を高めるための指導の研究を進めてきた。「指導内容の明確化を図る。(本時のめあてとGOALをはっきりさせる。）」「授業展開の工夫に重点を置いた授業の効果の検証をする。」を意識して授業を進めてきた結果、既有の知識・技能をもとに多様な方法で表現してみようとする児童が少しずつ増え、指導者が教材の工夫やしかけ、児童の振り返りを活用して課題解決に向かわせることで、児童の考えを深めることにつながった。しかし、自信がもてずに、積極的に表現することができない児童がまだ多く見られ、学習課題の設定や課題解決のための手立て、有効な発問についての課題も残された。また、今年度は、本校を会場に音楽科の全国大会が開催されることから、全校児童に音楽を学ぶ楽しさを実感させ、子どもの思いや願いを表現することを通して、確かな音楽の学びにつなげていく必要がある。

そこで、児童が主体的に学びに向かい、生き生きと表現することができるような学習の授業づくりに取り組むこととした。その際、学習過程全体を見通し、「何を学ばせるのか」を意識した課題設定や常時活動を行い、意欲的に問題解決的な学習に取り組めるようにする。また、「音楽を形づくっている要素」を生かして、子どもの思いや願いを表現させていきたい。更に、子どもたち一人一人の変容を見取るために、発問の吟味やワークシートの工夫をしていきたい。このように、学習過程全体を見通した問題解決的な学習を進めることで、児童の学びが深まり、表現力を高めることができると考える。

今年度の学校目標は、「アップデート！表現力！自分の思いや考えを主体的に表現することができる学力と態度の育成」である。子どもたちが、学ぶ意義やよさを実感しながら、友達と共に学習に取り組むことで、自分の思いや願いを主体的に表現することができ、本校の研究主題である「主体的に表現する児童の育成」に迫ることができるであろう。

２　研究のねらい

児童が主体的に表現する力を高めるために、どのような指導が有効か、授業実践を通して明らかにしていく。

３　研究仮説

学習過程全体を見通した問題解決的な学習を進める中で、児童が感じ取ったことや学んだことを生かして表現させることで、一人一人が学びを深め、主体的な表現力を高めることができると考える。

４　研究内容

(1) 基礎基本の確実な習得
　ア　「音楽を形づくっている要素」を意識した授業づくり
　イ　本時のねらいにあった常時活動の設定
(2) 問題解決的な学習の充実
　ア　学習過程の工夫（課題設定の工夫）
　イ　発問の吟味、ワークシートの工夫

５　年間計画

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名
6	２９	第１回授業研究（要請訪問） ２年１組　授業者　講師　越後　順子　　音楽科「ゆかいな時計」 指導助言　高倉　弘光　教諭（筑波大付属小）・石井一二三　主任指導主事
7	6	第２回授業研究 ６年１組　授業者　教諭　関下　健司　　音楽科「動機をもとに音楽をつくろう」 指導助言　石井一二三　主任指導主事
7	１９	第３回授業研究 ３年３組　授業者　教諭　俵山　光子　　音楽科「明日を信じて」 指導助言　小林　真人　氏（作曲家）・石井一二三　主任指導主事
１０	１９	第４回授業研究（ブロック研究） ６年３組　授業者　教諭　関下　健司　　音楽科「動機をもとに音楽をつくろう」
１１	1	第５回授業研究（全日音研八戸・三戸大会紙上開催のための録画） ６年２組　授業者　教諭　関下　健司　　音楽科「動機をもとに音楽をつくろう」 指導助言　石井一二三　主任指導主事
１１	4	第６回授業研究（全日音研八戸・三戸大会紙上開催のための録画） ３年１組　授業者　教諭　俵山　光子　　音楽科「明日を信じて」 指導助言　小林　真人　氏（作曲家）・石井一二三　主任指導主事
１１	5	第７回授業研究（全日音研八戸・三戸大会紙上開催のための録画） ２年２組　授業者　講師　越後　順子　　音楽科「ゆかいな時計」 指導助言　高倉　弘光　教諭（筑波大付属小）・石井一二三　主任指導主事

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要
4	１９	「問題解決的な音楽の授業づくりについて」 講師：八戸市総合教育センター　　石井　一二三　主任指導主事

６　研究の成果

(1) 音楽を形づくっている要素を「音楽のたねカード」として常に音楽室に掲示し、本時に関係するカードを児童に提示しながら授業を進めることで、児童がそれらの要素を意識しながら学習を進めたり、ふり返りをしたりすることができた。

(2) 導入時に、本時のねらいに関わる常時活動を設定することで、児童の学習意欲を高め、学びを深めることにつながった。

(3) 「本時の見通しをもつ（常時活動）」→「焦点化・視覚化・共有化する場面（教材との出会い）」→「関連付ける場面（教材との関わり）」→「よさ・面白さ・美しさを味わう場面（教材を味わう）」という学習過程や児童が考えを深めるための発問や児童の思考が見えるワークシートの工夫をしたことで、 問題解決的な学習を充実させ、児童一人ひとりの表現力を高めることにつながった。

７　研究の課題

(1) 児童自ら、音楽を形づくっている要素を使って学習を進めたり、ふり返りをしたりすることができるようなワークシートの工夫。

(2) 児童が主体的に問題を解決しようとする課題のもたせ方の工夫。

（記入者　橋本　泰子）